

よりだ寺福廣

11 号

「親鸞聖人行脚像」建立を発願

当寺新墓地造成工事は篤志家からの融資補給を頂きおかげさまで昨秋竣工、十一月十五日付で正式に県知事の許可を受けることができました。旧墓地からの移築分を含み昨年末までに40区画の分譲申し込みを受けました。工事竣工の段階にいたり、住職といたしまして「真宗寺院の墓地としてふさわしい象徴を」と思考するに至りこ



のほど定例世話方・総代会議にはかり「親鸞聖人行脚像」を奥まった一画（90番区画）に建立することを発願いたしました。

写経の納経塚として建立 銅像建立後は単に墓地の飾りものとしてではなくミノカサをつけた御開山さまの旅姿を通して遠い昔この越後の地に教化の足跡を残された御苦労をしのび、お経文の一節など写経してお台座に納めて頂く納経塚として拝んで頂きたいというのが住職の発願の趣旨でございます。当寺墓地にお墓をおもちの方

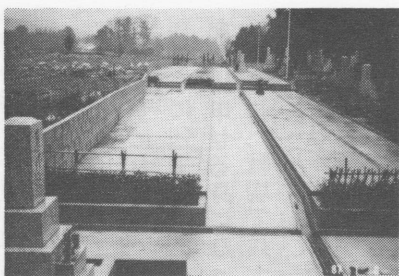
にかぎらず当寺参堂の折にはどうぞ皆さんからお参り頂きたいと存じます。

お台座建造に 銅

懇志のお願い 像は

京都、岩沢の梵鐘（銅製総丈6尺5寸で住職の寄進（老百万円）ですが、この尊像を安置する石組みのお台座ほか付帯工事費（約八十万円）は趣旨に御賛同頂ける方々から御懇志をお願いすることになりました。何卒御協力をお願いいたします。

◀写真は竣工の新墓地



3 月 9 日
本山御布教
梵 鐘 講

午前10時 おつとめ
布 教 福井市
西 雲 寺
護 城 一 寿 師

正 午 おとき
午 後 余 興
午後7時 お初夜

皆様お誘い合わせ、お参り下さるよう御案内申し上げます。

お念仏申せる身になる

煩惱具足^{ぐそく}の凡夫、火宅無常の世界は、万^{よろず}の事、皆^{みな}以て、虚言^{うそ}、戯言^{ごご}、実あることなきに、ただ、念仏のみぞ実^{まこと}にておはします―歎異抄―

〔松島義弘師 報恩講御布教の要旨〕

親に三つの親があるといわれる。第一の親は戸籍上の生みの親、親からのちを頂いて今生かされている。そのいのちのちとがはっきりしない。落ちつかない。

第二の親は毎日顔を見合せている親、しかも子供のかかり方で四六時中くるくる変わる親、親の上に子供の都合を見ている、また親の都合を子供のうえに見ている。そこには本当の親子の出会いはない。お互いに要求ばかりしている。さて親が亡くなると要求できない。はじめて頭が下がってくる。勝手に要求ばかりしていた自分に目がさめてくる。お



はずかしいことでございましたと気づいた時はじめて親子が出会ったといえる。

第三の親は如来の大悲の親。「助かってくれよ」という大悲の親心が頂けないと、生かされている事実のすべてがムダに終わってしまう。こんなはずでなかったという一日一日

が百年経いても全くムダに終わる。たった一つのまこと、助かってくれよという如来の心が、たった一つの言葉ナムアミダブとなって私によびかけられている。それに遇うことによって、どんな辛い出来事も私にとってムダでなかった。一切の事実をおかけさまでと頂ける身になる。そこにはじめてお念仏に遇わ

せて頂いたよろこびが頂かれてくる。

親鸞聖人九十年の御生涯を通して、およそ

人間的な幸せといえる出来事はうかがえないが、御臨終の時の御様子を「口ニ世事ヲマジヘズ唯仏恩ノフカキ事ヲノブ、声ニ余言ヲアラハサズ、モッパラ称名タウル事ナシ……ツ中ニ念仏ノ息タエヲハリヌ」と御伝文は伝えられている。御生涯の事実の一つ一つがおかけさまでと頂ける事実とかわっている。光り輝いている事実となっている。本当にお念仏にあわせて頂いて生きぬいていく力を頂いた喜び

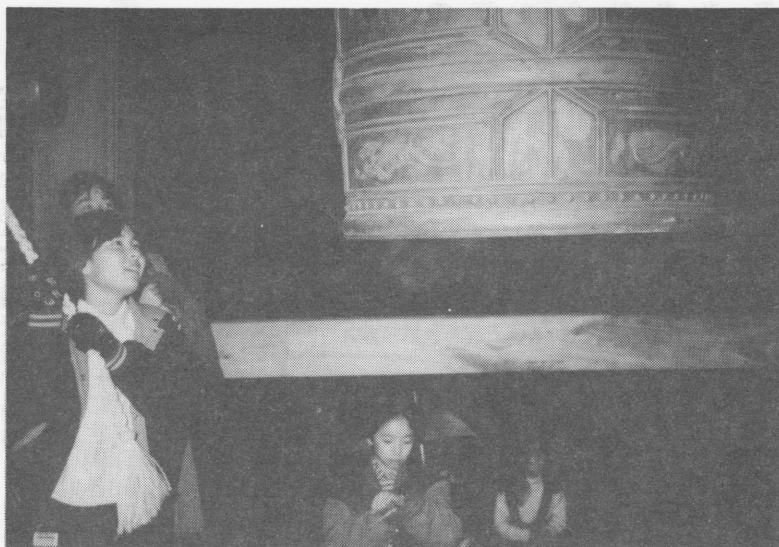


に貰かれている。

助かってくれよと願うて下さる如来の願心にあわせて頂く。せっぱつまった時、親の名をよばずにおれぬ。親の名をよんだ時すでに親の心に包まれてあったとめざめる。それがお念仏申せる身になったということ。遠く故国を離れた戦場で兵士が死んでいかねばならぬ時、きっと生きて帰ってきてくれよと願っていた母の名をよぶ、よんだとてきてはくれぬと分かっていてもよばずにおれぬ。母の願い母の心の中に包まれているからよべる。よんだだけで安心できる。お念仏申せる身になるというのと同じこと、助かってくれよという親心が先きにある。その願いをナムアミダブツという言葉にかえて私を動かして下さるからはじめて「念仏申さんと思いたつ心」がおこる。よびかけがあつてよべる。

念仏には「念じていて下さる仏様」の意味がある。こちらの私よりも先きに、私を念じ給う仏ということ。称名念仏という称にはとなえる、かなうの意味がある。如来のお心になう。どうか助かってくれよというお心をお念仏にかえて私をよびさましていて下さった、そうでございましたかと本当にうなずけた心がピッタリ一つになる。念仏申せる身になる。そのことに於て一切の事実が私の歩む道となる。これでよかったと言いきれる。

(燕市八王寺 安了寺御住職)



大みそかから元朝にかけての恒例の除夜の鐘つきはチビッコからお年寄りまで、家族ぐるみのお参りもまじってにぎわった。今年は外燈もついて新鐘楼がひととき美しく夜空に浮かびあがる。ゴォーンと鳴り響く鐘声の余韻が人それぞれの胸のひだにしみる。毎年のことながら年の瀬の感懐はひとしお、カガリ

家族ぐるみで除夜の鐘



火を囲んでの談笑、交歓、遠い昔からのならわしの中で確かめ合う人と人のきずな。熱カシ、甘酒、コンニャク……身も心もぬくもつてくるころ、はや年は明けている。チビッコも鐘つきの行事を通して仏さまとの御縁を結んでいく。御縁はいつの日か花開き、生きてはたらく活力をはぐくんでいく。鐘声は十一

時過ぎから二時近くまで十方に鳴り響いた。

寺格昇格

数年来、御本山からの懇請もあり宗派おもりたてのため広福寺は特座院家二等に、心光寺は本座内陣三等にそれぞれ寺格昇格を申請、昨年六月十八日付授与されました。

門信徒会館懇志を上納 広福寺分三十万円 心光寺分七万五千円を門徒一同の名で上納しました。(門徒各戸にパンフレット配布)

仏教婦人会会員必携 末寺の婦人会を眞宗門徒各戸に一冊配布 仏光寺派婦人会連盟に加盟するよう本山からお願いがあり加盟登録を申請しました。「必携」を配布しますのおとめや仏事のとき御活用願います。

本山団体参拝と 広福寺主催で六月一日か御旧跡巡拝の旅 三日まで二泊三日、旅費概算五万五千円、バス一台定員四十名程度の旅行を計画しました。寺の地元を中心にちらしを配布しますが、遠方の方で参加御希望の方は四月末日までに寺までお申し込みをお願いいたします。本廟、本山参り(一泊)のほか六角堂、日野法界寺、比叡山を経て芦原一泊、吉崎御坊をお参りして帰る予定です。

御寄進 新墓地の緑地帯四か所にサツキ、北側に紅モッコクの生垣を植栽して頂きました。御寄進は燕市の大谷統司氏、工費十二万円、施工稲葉造園。御芳志まことにありがたく厚く御礼を申し上げます。

I 昭和61年度 当 寺 勸 金 決 算 書

〔収入の部〕

科 目	決 算 額
勸 金	2,098,000
雑 収 入	53,401
繰 越 金	221,822
計	2,373,223

・負担金の内訳

広福寺分	882,354
心光寺分	286,030
ともしび	27,000
会員必携	99,000

〔支出の部〕

科 目	決 算 額	摘 要
寺務経常費		
負 担 金	1,294,384	本山護持金・冥加金・懇志
事務通信費	158,468	複写機入れ替え ほか
会 議 費	94,830	世話方・総代会議
教 化 費	163,420	御布教・広福寺だより
営繕管理費	317,535	本堂営繕・火災共済・掃除機
門徒交際費	198,900	御本尊下付・見舞・謝礼
小 計	2,227,537	
繰 越 金	145,686	次年度へ繰り越し
計	2,373,223	

II 昭和62年度 当 寺 勸 金 予 算 書

〔収入の部〕

科 目	予 算 額
勸 金	1,800,000
雑 収 入	4,314
繰 越 金	145,686
計	1,950,000

〔支出の部〕

科 目	予 算 額
寺 務 経 常 費	1,450,000
事 業 費	300,000
予 備 費	200,000
計	1,950,000

III 昭和61年度 本堂境内整備基金決算書

〔収入の部〕

科 目	決 算 額
積 立 金	2,000,000
預 金 利 息	72,325
雑 収 入	188,000
計	2,260,325

・雑収入は過年度鐘楼勸金・懇志残

〔支出の部〕

科 目	決 算 額
本堂御宮殿屋根工事	420,000
本堂墓地参道補修	466,000
本堂参道敷石工事	425,000
旧墓地墓移築工事	92,910
繰 越 金	856,415
計	2,260,325

定例各字総代会議決議御通知

去る一月二十六日の定例世話方会議、二月三日の会計監査を経て二月八日の定例各字総代会議におきまして別表ⅠⅡⅢの決算書・予算書が承認されましたので御通知申し上げます。年々本堂ならびに境内が整備されてまいりましたことは、ひとえに門徒各位の愛山護

門徒各位

世話方総代 山岸 義正
住 職 柏原 恵信

法の御懇念の賜物と厚く御礼を申し上げます。なお昨年度途中に本山から門信徒会館懇志上納のお願いがあり協議の結果昨年度の会計から上納の運びとなったことを申し添えます。

なお当日の会議で承認された議案は

門徒一戸当たり七千円の勸金、昨年度は八納期は八月末日までにお願ひ 千円の勸金をお願ひいたしましたことが、本年度は七千円を

八月末までにお願ひすることが申し合わされました。世話方のおいでにならぬ地区についてはハガキで御連絡の上住職が願ひに参上いたしますのでよろしくお願ひいたします。

今年度のとりくみ 毎月二十日開かれていく聞法会奨励のため教化費から若干の補助金を支出することになりました。営繕管理費では、旧墓地西側の参道の整備、舗装と寺の行事のときの駐車用地を確保するための空地の整地工事が予定されております。

事業費では心光寺本堂祖師前御厨子新調の助成金として三十万円が計上されました。

なお御本山で婦人会の活性化に力を入れておられます。当寺ではお講組や女性講の行事を一層盛りあげていくため力をつくしたいと思ひます。とだえていく地区についてはお願ひにあがりますので何卒よろしくお願ひいたします。新潟教区から当寺を会場に布教大会を開きたいというお願ひがありました。毎年六月六日の永代経法要のお参りにあわせて開くことになりましたが、布教師のお都合で六月十日に期日変更される予定です。期日確定次第御案内いたしますので、お誘い合わせで多数お参り下さるようお願いいたします。